

様式 F - 7 - 1

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成26年度）

1. 機関番号

3	2	6	0	4
---	---	---	---	---

 2. 研究機関名 大妻女子大学
3. 研究種目名 挑戦的萌芽研究 4. 補助事業期間 平成25年度～平成27年度

5. 課題番号

2	5	5	9	0	1	4	0
---	---	---	---	---	---	---	---

6. 研究課題名 介護職員の就労意欲の向上にむけた介護現場の条件を探る 施設特性からの影響

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
4 0 3 1 2 1 8 6	ミブ ナオミ 壬生 尚美	人間関係学部	准教授

8. 研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
3 0 5 1 7 2 2 2	キム ミジン 金 美辰	人間関係学部	講師

9. 研究実績の概要

特別養護老人ホームにおける介護職員の仕事継続意識に焦点をあて、仕事継続に影響を及ぼす要因を探ることを本研究の目的とした。平成25年度の調査では、関東地域の20か所の特別養護老人ホームの介護職員の仕事への意識調査を中心に実施した。その結果、勤務年数や介護福祉士資格の有無によって仕事のやりがい感や継続意識に有意差が見られた。

平成26年度は、平成25年度の調査結果を踏まえ、対象データの偏りを修正するために、ユニット型施設に依頼し追加調査（3施設）を実施した。また、先駆的な取り組みをしている施設として、韓国の長期療養保護施設（特別養護老人ホーム）に訪問し、施設運営、システム等について管理者や療養保護士に直接面接調査を行った。韓国は、日本と同様に介護職員の高い離職率が問題となっている。しかし、韓国では、介護サービスの質の確保のために、利用者がサービスの水準等を踏まえながら優秀機関を選択でき評価制度が導入されている。そのため、A級機関として評価された施設の療養保護士に同様な仕事への意識調査を行った。その結果、仕事への肯定的な意識、満足感に関しては、勤務年数、年齢、療養保護士の取得資格の背景により違いが見られた。また、面接調査から、療養保護士は職場内研修に積極的に参加し、地域住民へのサポートを行っていた。そして、介護の仕事にやりがい感を強く持っていた。以上より、介護職の個性性を重視した職場内サポートが重要であり、多職種連携のもと地域住民との協力体制づくりが介護職員の意欲を高め、サービスの質を高めるものと推測された。

研究成果としては、第21回日本介護福祉学会、第56回日本老年社会学会、第8回日本自立支援介護学会等で口頭発表し、韓国療養保護施設の調査結果については大学紀要に論文発表した。